

鎌倉楽しむ会

江戸・東京の歴史探訪

竜閑川跡の今昔と

人形町の
賑わいを
訪ねる

地下鉄大手町駅C3出口

平成29年5月24日

日本橋川緑道公園



- 日本橋川に架かる神田橋から鎌倉橋あたりは、緑道公園として整備され、お昼頃にはランチ車が出て、公園のベンチで青空の下で昼食を楽しむ光景も見られます。

鎌倉橋



- 鎌倉橋の名前の由来は、徳川家康公が慶長8年(1603)征夷大將軍となり、江戸城を築城する時に鎌倉方面から石を運び荷揚げしたことも一つの理由とか。また、太平洋戦争で東京が空襲された時の機銃掃射の跡が生々しく残っています。その説明板が上記の写真です。

竜閑川について



に土手を築き、その後、町人たちが資金を出し合って開削したという。

- 安政四年(1857)一度は埋め立てられたが、明治16年(1883)、浜町川の神田川方面の開削に伴い、再度開削される。しかしながら、太平洋戦争で荒廃した残土処理のため昭和25年(1950)に、竜閑川が再び埋め立てられ現在に至る。「竜閑」という名については旧幕府坊主(殿中接待役)の井上竜閑の家が、川の西側にあったことに由来する。
- 上記の写真は、竜閑川の欄干です。大正15年(1926)に架けられた、日本で初めての鉄筋コンクリートのトラス橋ということになっています。
- 竜閑川は、元禄四年(1691)に開削された掘割で、神田八丁堀とも呼ばれていた。明暦の大火(1657)の後、防火対策のため

今川小路



- 竜閑川の川筋を進むとJR線のガードを通る。そこに数件のレトロな酒場がある。今川小路の看板が目につく。

白旗神社



- 源氏の笹竜胆と稲荷紋が神社の神紋となっています。創建は不詳ですが、古くから村の鎮守として稲荷神(宇迦之魂神・うかのみたまのかみ)を祀り、一説には源義家が奥州征伐に向かう時、戦勝祈願をしたという。

今川橋跡



- 江戸名所図会に描かれている今川橋です。日本橋から北方に向かう街道の最

石町の鐘跡



- 初に渡る橋である。日本橋方面に百ほど行った処に石町の時の鐘があった。

夜半亭跡

菜の花や
月は東に
日は西に

- 上の句は有名な与謝無村の作品です。摂津(大阪)の生まれで、20才の頃江戸へ出て、この地に逗留し、早野巴人に師事し、画家でも大成しています。

長崎屋跡



- 江戸時代、長崎出島よりオランダ商館長が定宿としていた、長崎屋の画です。ヨーロッパの知識を吸収しようと平賀源内、前野良沢、杉田玄白、中川淳庵、高橋景保など学者・文化人が多数訪れた。

丸石ビルディング



● 日本で最初の超高層ビル“霞が関ビルディング”を設計した山下寿朗氏が、昭和6年(1931)に設計した。国指定有形文化財の建物です。中央区と千代田区の区境の旧劉閑川沿いに建っています。

十思公園伝馬町牢屋敷跡



● “身はたとひ 武蔵の野辺に朽ちぬとも 留め置かまし 大和魂”
吉田松陰先生が獄中で遺書として門弟達に書き残した『留魂録』冒頭に記された辞世の歌です。画像はその石碑です。また、家族には“親思う 心にまさる親心 けふのおと

ずれ何ときくらん”の辞世の歌を残している。

● 十思公園は吉田松陰先生が処刑された「伝馬町牢屋敷跡」です。処刑は安政6(1859)10月27日に牢内でされ、遺骸は小塚原刑場の回向院に葬られた(享年30)。その後、文久3年(1863)高杉晋作ら攘夷の志士により世田谷に「松陰神社」として祀られる。

● 松陰神社は因縁の井伊掃部頭直弼ゆかりの菩提寺「豪徳寺」とはほど近い場所にある。

石町の時の鐘



● 江戸時代最初の時の鐘で、宝永8年(1711)鑄造され、昭和5年十思公園に再建された。都重宝になっている。江戸時代は浅草、上野、横川町、本所、市谷、目黒、赤坂町、四谷天龍寺など九ヶ所に時の鐘があった。

大安楽寺



● 新高野山大安楽寺は牢獄の跡に大倉喜八郎(大倉財閥)と安田善次郎(安田財閥)が発起人となり、高野山より、弘法大師像を勧請し真言宗の別格本山として、明治16年(1883)に建立された。境内には「八臂弁財天」の祀られる祠もあります。

身延別院

● ご本堂は昭和4年に再建されたが、東京大空襲には奇跡的に免れて今日に至っている。日蓮大聖人が刻したと伝わる「願満日蓮大菩薩像」が奉安されています。境内には昭和の大スター長谷川一夫さんの奥様が信仰された「油かけ大黒天神」がお祀りされています。また、光明稲荷大明神も祀られています。

寶田恵比寿神社

● 慶長11年(1606)、江戸城外の宝田村の鎮守でありました。徳川家康公が江戸城拡張のため転居を命じられたので、馬込勘解由が住民を引率してお社を奉安してこの地に移転した。馬込勘解由は三河から家康公に仕えてきて、徳川家繁栄の印に恵比寿神像を賜り合祀してお祀りした。ここから発した「ベッタラ市」は江戸中期頃から盛んになり、今日でも例年10月19・20日は大賑わいとなっている。

梶森神社



● 平安時代の承平5年(935)に起きた平将門の乱を鎮定する祈願を藤原秀郷が行って戦勝したという。また、太田道灌公も雨乞い祈願のため伏見稲荷大社の神を勧請して篤く信仰したという。

玄治店跡



● 三代将軍徳川家光公に仕えた奥医師・岡本玄治が幕府からの拝領屋敷があった処です。岡本玄治は京

の曲直瀬玄朔の高弟で、天皇の診察もしていた。元和9年(1623)二代将軍・秀忠公に召され江戸に定住するようになった。

● 家光公が幼少時に天然痘にかかった際には、乳母の春日局と一緒に家光公を助けて、拝領屋敷地1500坪を賜りました。

大観音寺



● 鉄造菩薩像を祀っています。鎌倉の鉄の井から出現し神仏分離令に際し鎌倉から移され、明治9年(1876)大観音寺に安置され本尊とされています。鑄造されたのは鎌倉時代で、昭和47年都指定有形文化財に指定されました。

旧吉原の跡

● 庄司甚右衛門が幕府の許可を受けて元和3年(1617)から明暦3年(1657)に営業していた。その後は新吉原に移った

● 谷崎潤一郎は明治19年(1886)この地で生誕し数々の名作を著しノーベル賞候補にも上がったという。

● 明治の初め、西郷隆盛が明治政府の参議として五年間、屋敷を構えていました。

クジラの髭



● 人形町一帯は寛永10年(1633)頃から人形浄瑠璃から伝承された文楽人形造りが盛んで、あやつり人形の微妙な動きには鯨ヒゲでなければ出せないそうです。画像は鯨のモニュメント。

第十二回鎌倉樂しむ会

竜閑川跡く人形堀コース参考資料

● 小伝馬町牢屋敷について

☆ 慶長年間から、約二百年間、明治八年、市谷刑務所ができるまで存在した。

☆ 管理は、町奉行支配下の「石出帯刀家」が世襲した。

☆ 幕末、安政の大獄では吉田松陰、橋本左内ら五十余名が収容され、処刑された。

☆ 吉田松陰の処刑前の辞世の句

親思う心にまさる親心

けふのおとずれ何ときくらん

☆ 吉田松陰の処刑前の弟子への辞世の句

身はたとひ 武蔵の野辺に

朽ちぬとも 留め置かまし大和魂

☆ 吉田松陰の処刑前の句

呼び出しの 声待つほかに今の世に

なすべきことの なかりけるかな

☆ 首切り役人は、山田浅右衛門

☆ 「石町の時の鐘」・・・第一号

初めは江戸城内にあったが、二代將軍秀忠公が、耳障りとして「太鼓」に替え、鐘は庶民に下しおかれた。

鐘つき人は、牢屋敷の処刑の時間を少しでもものばしてやろうと、時には遅らせてついたともいう。

● 玄治店を一躍有名にした

歌舞伎「与話情浮名横櫛」
よはなさけうきなよこぐし

さる大店の若旦那が、木更津でお富という美人にほれたが、実

つつもたせ

は美人局だったので、若旦那の与三郎はヤクザに全身ずたずた

に切られる。親に勘当された与三郎は、やけくそでユスリタカ

なりわい

リを生業とするようになる。そして偶然、玄治店の一人住まい

の女の家を押し入ったら、お富がいたのである。頬がむりをと

って傷だらけの顔を見せ

『しがねえ恋の情が仇、いのちのつなの切れたのを、どうとりとめてか木更津から、めぐる季節も三年ごし、江戸の親には勘当され…』

の名セリフが続く……

【將軍の御用を勤める浪人】

將軍の手足となつて幕府を運営していた御直参じきさんは、身分の差こそあれ、幕府の職員録である「武鑑ぶかん」や「諸役大概順しよやくたいがいじゆん」に記載され、幕府から知行や俸禄ほうろくを得ているれっきとした幕臣でであつた。

しかし、めずらしい事例として、幕臣の籍をもたず無禄むろくの浪人身分ながら將軍の御用ごようを勤め、幕府から金銭を支給されていた者に、山田浅右衛門やまだあさえもんがいた。

浅右衛門は、俗に「首斬り浅右衛門くびき」と呼ばれ、將軍家の刀劍の試し斬りためぎ（様斬ためしきり）を処刑者の死体で行なう「公儀御様御用こうぎおためしごよう」を請け負い、時には町奉行同心ちやうしんにかわり首打役くびうちやくを勤めた。代々山田浅右衛門を名のり、幕府御腰物奉おこしもの

行の要請を受け將軍佩刀はいとうの「御様おためし」を小伝馬町牢屋敷内の「様場ためしば」で行ない、一刀ごとに謝礼金を受けたが、身分はあくまで浪人ろうにんであつた。

浅右衛門は、御様御用のかたわらで得た死罪人の肝臓かんぞうを漢方薬として販売し、「肝取り浅右衛門きもと」とも呼ばれた。また、刀劍鑑定かんていを副業とするなど、無縁の浪人ながら生活はひじょうに裕福ゆうふくであつたという。

なお、安政の大獄あんせいで斬首ざんしゅとなつた吉田松陰よしだしやういん、橋本左内はしもとさない、頼三樹三郎らいみきさぶろうを斬つたのは、七代山田浅右衛門吉利である。

（参考・江戸博覧強記より）